

星座が決まって100周年！

星座っていつあるの？

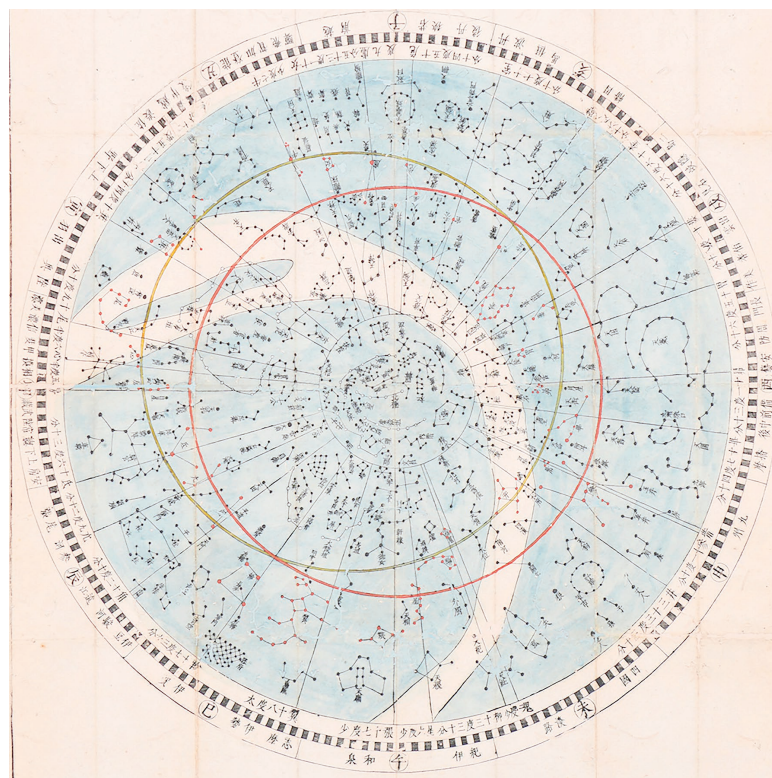
るため、季節ごとに県内各地の観測地に撮影に出掛けています。観測地では、夜中に一人なので、動物たちの鳴き声や動く気配におびえながら撮影しています。一人で静かに活動していると、動物たちの獣臭がするほど本当に近くまで寄ってきます。そんな恐怖に打ち勝つて、星座の一部だけでも含め山口県で見ることができるとあって76のうち、75の星座を写真に収めることができました。残念ながらあと二つ「みなみじゅうじ」座だけが撮影できていません。えっ、みなみじゅうじ座は山口県から見えないの？と思われるかもしれませんが、冬から春にかけて上関町や周防大島町などの県東部でその一部を見ることが出来ます。宇部市などの県中・西部では、九州の山の陰になり、残念ながら見ることはできません。

「ほっとやはく」

タイム②



皆さん、星座についてあるかご存じですか？星占いに出てくる12？でも小学校の教科書には12星座の他にオリオン座や白鳥座などが登場するのもっと多いことが分かりますね。正解は全天で88。そのうち、山口県で見ることのできる星座はいくつなのでしょう。私は、それを確認す



天文分野之圖（1677年渋川春海、当館蔵、ホームページで閲覧可能）

星座って昔からあるの？

星座の名前は動物、神話に登場する人物、道具などの名前が付けられています。現在使われている主な星座は、数千年も前から存在しており、古代メソポタミア文明までさかのぼることができるといわれています。メソポタミアからギリシャに伝わり、紀元150年ごろギリシャのプトレマイオスが書いた「アルマゲスト」に48星座が記され

観測地点で出合ったイノシシの親子。他にもウサギ、タヌキ、アナグマ、シカなどに出くわすことも



にも多くの星座があったことが当館所蔵の「天文分野之圖」から見とれます。その後、明治時代になって西洋の文化を取り入れたことで、日本の星座名も西洋天文学に準ずるようになりました。世界的に乱立していた星座を整理しようという動きが高まり、今からおよそ100年前の1922年5月、日本も加盟していた国際天文学連合が現在の88の星座に統一をしました。それから今

岩村和政（学芸員・天文担当）
▽次回は来年1月11日



企画展「やはくの天体望遠鏡」では山口県から見た星座の写真を展示しています

企画展「やはくの天体望遠鏡」では山口県から見た星座の写真を展示しています

山口県立山口博物館
TEL 083-922-0294
月曜休館（祝日の場合は翌日）。
最新情報はホームページで

